

# 情報文化 学生瓦版

2016年9月14日  
第108号

発行 情報文化学科 玉田 ツキダシ  
社主 大木 ヨリキリ  
編集長 松村 オシダシ  
顧問 神部 ウワテナゲ  
八木 コテナゲ  
鈴木 スクイナゲ  
山口 ダシナゲ  
学生 橋垣 カタスカシ  
鹿角 タタキコミ  
柴田 ソトムソウ  
澤田 ヒキオトシ  
佐藤 ウワテヌリ

英語教育研究会

9月24日(土)  
A B C  
お待ちしております!!

行事 大相撲九月場所  
情報文化学科では9月12日に両国国技館で行われている大相撲九月場所を観戦をした。最後の最後までつれる大熱戦を駆け、参加者は大いに盛り上がった。



## 日本の誇る国技大相撲を観戦 観客と力士の熱意のぶつかり合い



ドンドンドン！朝8時になると同時に櫓の上から聞こえてくる一番太鼓の音を聞きながら、期待に胸を膨らませその会場に踏み入る。平成28年9月12日、「大相撲九月場所」を観戦するため、私たち情報文化学科61名は両国国技館に集まった。平日の朝にもかかわらず国技館の前にはすでに長い列が出来上がっており、熱心なファンの方や外国人の方々もいた。

朝は序ノ口から取組が始まる。序ノ口とは大相撲の番付で一番階級が低いことを表しており、この時間はまだまげを結えず、体も出来上がっていない力士たちの取組を観ることが出来る。私たちの知っている力士たちの姿とは少し違うが、勝利を目指すその姿勢には人を引き込むものがある。体格の差があるにもかかわらずに勝利する力士の姿にはいつい拍手を送らずにはいられない。

朝食を食べて席に戻り、午後の取組を観戦する。午後までいると場の雰囲気慣れてきたのか試合ごとに思わず大きな声を出す人も増えてくる。段々と時間がたつにつれ、観客の数じたいも増えていき、応援する声や拍手の音が会場中に響きわたる。ふと土俵の上を見ればいつの間にか掲げられている「満員御礼」の垂れ幕。会場はますます盛り上がっていく。



両国国技館での集合写真の様子

朝から続いた取組も終わり、最後の締めめに弓取り式が始まる。弓を華麗に振る力士の姿を真剣に見つめる。終わると同時に、会場にいる観客たちが拍手を送る。楽しかった相撲も終わり、好きな力士が勝って上機嫌な人。惜しくも負けてしまい悔し気な人。それぞれの記憶を抱えながらみんなが帰途につく。朝にも響いていた「ドンドンドン」の太鼓の音をまた聞きながら、国技館を後にする。

## 英語でひとこと [Soft and fair goes far.]

「柔よく剛を制す」という意味の言葉が、相撲の精神に通じる。柔らかな心で、強い魂をもち、勝負の場では、力強い相手を打ち倒す。このように力勝負ではなく、心勝負の相撲。一つ一つの勝負で、常に上を目指して挑戦していく。私たちが大相撲を観戦した。最後の勝負、澤田 ヒキオトシ

## 若声力語

(じゃくせいりご)

「今日は勝つ。」毎日気持ちよく新しな朝8時の土俵に向かう。私たちと同時代力士の迫力から、日々の勝利の一つが、その力士としての一生を決めてしまおうのではないかと感じた。このことは、誰にでも言えるのではないだろうか。私も毎日気持ちよく新しな目標を見つめ直し、新たな課題に挑みたい。若い人からご年配の方、外国人に幼い子ども、あらゆる文化、世代、環境で育ってきた人たちが両国国技館に集う。日本の国技である大相撲の偉大さを感じる。一番の取り組み、その瞬にかける厳しい練習や強い思いは計り知れない。私は、多くの人を惹きつけられる人、何かを伝えられる人になれるだろうか。私は勝つために、できることを毎日考え続けたい。勝つとは、自分に正直であることの結果だと思う。その実現に向けて、気を迷わせることなく行動できるかが大切だ。ちゃんこ鍋を食べて身にも健康に、私たちが新しい目標であるそれぞれの土俵に向かつて、さあ、ハッキョイ、ノコッタ。

(鹿角 タタキコミ)

## 国技館グルメを味わうの巻



作：柴田 ソトムソウ

国技館は見どころがいっぱい！  
相撲博物館では相撲の歴史を学ぼう



力士の力の源  
ちゃんこ鍋